

## 提言書のとりまとめに向けて

## 第14回市民会議での意見の概要

## ◎基本構想について

- ・柱があり、それを具体化させる方向で展開していく（A班）
  - 自助・共助・公助
  - 「元気」から3本柱に展開「住みよいまち／安心・安定」、「暮らしの向上」、「経済・元気～循環」
- ・修正やハンドルがきれる総合計画（B版）
- ・「人と人とのかかわり」、「人格を守るまちづくり」、「市民参加」の3本柱（C班）

## ◎提言について

- ・市民参加により、解答をつくり出す仕組みを提言したい。（B班）
  - 個別課題についての検討は、その仕組みのなかでやっていく（今回の提言ではそこまでいらない）
- ・分科会の提案を統合したら、プロジェクトができるのでは（C班）

## ◎提言のまとめ方

- ・各分科会で自由に作成 → 最後にまとめる（積み上げ型）（A班）
- ・基本構想までしか難しい。基本計画はむりでは（B班）
- ・分科会積み上げ（断片的）VS 全体再構築（論理的に展開、ロジカル）（C班）
- ・市民が多く感じることを重視VS 市民の時代認識が十分か（C班）

## ◎地域別課題について

- ・時間的にも地域別課題はとりあげられない（B班）
- ・もっと細分化した地域で意見交換ができれば（B班）

## ◎数値目標

- ・すべての取り組みに数値目標をつけるのは難しいかも（B班）

## ◎市民の巻き込み

- ・「自助」・「共助」の流れをどうつくっていくか？（A班）
- ・コミュニティを本気でつくっていくことの提案（B班）

## [第1回：市長、事務局]

- ・これからの箕面の青写真
- ・総合計画の土台となる基本構想について提案が欲しい
- ・可能であれば目標数値を
- ・市民へのパブリックコメントや議会との対話を

## [第4回：阿部さん]

- ・説得力のある提言とは
  - ① 箕面市の現状と予想される近未来の状況を十分に踏まえた実現性の高い提言であること
  - ② 多くの市民の賛同が得られる提言であること
  - ③ 内的に整合的な提言であること

## ■20年度の活動に向けて（A班）

○基本構想（大切にしている考え方）  
に肉付けしていこう。

- ・ 4次：共生・創造・協働  
→5次：自助・共助・公助  
    <社会の変化>
- ・ 具体的提言の確認  
    柱になるテーマ
- ・ “柱(構想)”があり、それを具体化！  
    住みよいまち／安心・安定  
    暮らしの向上  
    経済・元気～循環

○追加テーマ

- ・ 財政状況は本当に厳しいのか？  
    －どの程度…どういった手法で評価するか
- －将来の見込み
- －だったらどうする
- －痛みを共有できるか
- ・ 都市計画が提言にもれている

○提言のまとめ方～基本構想のまとめは後でよい

- ・ 基本構想・基本計画は、分科会を全体的にまとめ(分科会解散時に作ってもよい)。<後付け構想型>
- ・ 提言書の原案までは、第4次総計型のフォーム(基本構想・基本計画)に、こだわらないほうが良い(発想されやすい)(生のパワーが出る)

○テーマと分科会  
<「四次総」を超える>

- ・ 河内長野は5つの基本構想。第4次総計より進んだものにしたい。(市民の意見、時代への対応)
- ・ 第4次、3期進行中の課題を見よう！  
    －現状分析は十分か。  
    －検証を総合的にもっと進める。  
    －小さなまちづくり(地域)の声、要望の取り上げ方。  
    (今ある資料を精査して)

<課題>

- ・ 分科会の残った課題 処理
- ・ 提言「積上型」が良い。
- ・ 4月～5月は、分科会単位で実行施策の内容を具体的  
    ⇒将来像～具体策まで。

<進め方>

- ・ 第1～第6で共通点を整理し、テーマごとにいろんな分科会で集まり、分かれる。
- ・ 分科会の検討時間、もっとあってもいいのでは？

○市民との関係

- ・ 自助・共助の流れづくりは？  
↓  
提言確定までの市民参加、  
巻き込み方多数。

個別外部との対話



## ■20年度の活動に向けて（B班）

### ○発展型の基本計画

- ・個別課題への“解答”を提案することはできない。“解答”を引き出す仕組みが大切！
  - ⇨“解答”を出すことは従来の療法と変わらない。もっと創造的でありたい。
    - ←理念をまずまとめる←意見を出してもらう
    - ←基本目標の提言内容の議論が必要
- ・提言の対応分野は“扶助”を中心としたらいい。他を入れることは総計一冊を書き上げること
- ・市民提案とは？ ⇒今までは“協働”をうたっても市民抜きで計画で結局進んでいないのが実状
  - ←この“課題”を克服する“(市民参画の)仕組み”をきちんと提案すべき！！
- ・住民参加・参画の円卓会議づくり
- ・自治基本条例、まちづくり基本条例的なものも市民の意見を入れた物に
- ・コミュニティを本気で作っていくことの提言。色々な問題を話し合う場の提言

### ○分科会

- ・各分科会の接点をもたせる
- ・分科会のいままでの輪をうまく継続しながらつづける
- ・それぞれの分科会がやっているところまではアンバラがあってもまとめきってもらう

### ・マクロの視点とミクロの視点

- ・広くかつ1つアクセントをつけた提言
- ・ある事項「課題」を多面的に（様々な角度から）考えていく メリット、デメリット
- ・箕面の「強み」と「弱み」を踏まえた提言を
- ・理念的な発表からやや具体的な提言に
- ・課題で抜けていることがあるのでは

### ○今後の策定へ

- ・市民会議はあしたの箕面をつくる知恵袋だから活用すべし！
- ・提言書のイメージ共有が必要（背景、目標なおの文書、目玉施策、各分科会のシート）

### ○量がうすぺらい提言（例えば、A4 1枚）

⇒今後の協働が大切！

- ・時間的にも地域別課題はとりあげられない。
- ・提言書のイメージ 基本計画ぐらいまで？ でも全ての取組に数値目標をつけるのは提言書の段階では難しいかも。
- ・提言イメージ 時間的に基本構想の作成までしか無理ではないか。計画まで作成するには期間延長が必要と思います。

### ○修正やハンドルがきれる総合計画

### ○意見を求める上での課題

- ・人集め少なかった
- ・言っていることが伝わっているのか？言っていることを支持できるのか？アンケートを入れておくべきだった。
- ・意見交流会に来られた方以外にももっと多くの人の意見を聞く必要があると思いました。今、市民会議に興味のない人、その存在を知らない人にも、アンケートなどで何らかの方法で意見を聞き、その意見を反映させたいです。
- ・止々呂美、東部などの意見交流会であったが、もっと細分化（箕面、牧落、粟生間谷など）

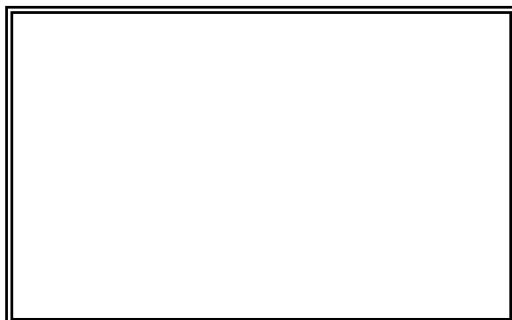
### ○説明する上での課題

- ・相手（聴く側、見る側、受け取る側）の立場で考えたのかどうか。

### ○感想

- ・地域が抱える問題があると気づかされた。同じ市でも地域特性が多様であった。
- ・止々呂美のかたともっとよく話し合った方がいいのではと思いました。

## ■20年度の活動に向けて (C班)



- ・自治会を通して、広報・学校に(市民会議)
- ・事務局の中に広報部を作る。
- ・新聞社、朝日・毎日・読売・サンケイに市民会議を掲載してもらうよう交渉する。
- ・TV局に取材してもらう。
- ・ニュース番組に特集「市民会議」を作成してもらう。
- ・ミニコミ紙、サンケイリビング、読売ファミリー等に市民会議の記事にしてもらう。
- ・市民会議が注目されるようにする。そうすれば、市民会議の会議の内容が、より締まる。
- ・事務局でミクシィに市民会議のコミュニティを作り、意見交換をしていく。

- ・分科会は、勉強期間として、宿題である基本構想を全体からの視点で組み立てることが必要
- ・市民の提案とは？スポーツでも、市民提案でよいのでは？
- ・基本構想で全体像を描くこと、共有することの重要性はわかるが、そこに至る議論は、非常に時間がかかると思う。
- ・基本構想＝交流会の総論、肉付けは必要
- ・あれもこれもではなく、断片的でも市民会議としての思いを提言すれば良い。
- ・各分科会の提言案が未熟。もっと詰めるべし。
- ・時代認識を再度共有化。重点課題が見える。
- ・何が重要かが見えていない。健全財政、市民自治社会が10年後に実現するまちは前提として政策は何か？
- ・分科会ごとにわりあてられた10分は、十分な時間とは言えなかった。他の分科会から、各分科会の発表を見て、会の活動と成果は見えていたか？
- ・期間を2020として、具体的地域経営計画化すべき。
- ・地域経営計画としての総合計画では、基本構想でどう特長的な内容となるか？
- ・市民の立場の提言では、将来展望が充分かどうか分からない。
- ・分析的手法欠如の中で優先重点化が出来ていないので今後固めるべき
- ・基本構想について～①～⑤の分科会で各論を礎として、「人と人との関わり、人格を守る街づくり、市民参加」を柱として組み立てていけるのではないか？

- ・市民参加から市民参画のまちづくりへ 市民自治のまちづくりを目指して！！
- ・市民自治社会が将来都市像か？それでよいのか。
- ・子どもたちに必要なものは箕面での思い出。たとえ、10年で姿が変わっていてもいい思い出を持っていれば、いいのでは？じゃあ、どんな思い出を…。
- ・行政における達成度を伝えてもらう。(箕面市新子どもプラン。P.73,74の目標指標はどこまで達成できているのか？)
- ・情報を共有するまち(市民と公)
- ・<福祉>一人一人が生活の質QOLを落とさない。病気や障害があっても！！
- ・かしこい市民のくらすまち、かしこい市民を育てる(生涯学習)
- ・資格試験、国家試験の合格者を今までの2倍にする。資格王国箕面市。
- ・子どもたちの力を街づくりに活かせる場を。
- ・重要プロジェクト“農学再生プログラム”としてリードプランに！
- ・現在の高齢・介護対策が10年後、担保されているのか？